

<p><b>学校教育目標</b> 教職員の信頼と協力を基調とし、一人一人の生徒に人権の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒の育成を目指す。</p>
<p>《本年度の重点目標》</p>
<p>《重点目標1》 特別な教育的支援の視点を重視した、生徒一人一人に応じた『わかる授業』、効果的な学習指導による学力の向上</p>
<p>《重点目標2》 自他を大切にす優しい心を持ち、豊かな人間性を育てる教育の推進</p>
<p>《重点目標3》 健やかな体をつくる指導の充実、体力の向上</p>
<p>《重点目標4》 地域に根差した教育、小中一貫・連携教育の推進</p>

◆記入にあたっての留意事項

- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。
  - ①学力向上に関する取組
  - ②体力向上に関する取組
  - ③心の育ちに関する取組
  - ④いじめ問題解決に関する取組
  - ⑤特別支援教育推進に関する取組
  - ⑥あいさつ日本一に関する取組
- 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取ることを。
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少して目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に関する取組	<p>【授業改善①】 〈学校アンケート〉「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上] 〈学校アンケート〉「授業の終わりにまとめや学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上]</p>	<p>○めあて・まとめカードを全教室、特別教室に整備する。管理職から授業構想シートの活用を促し、「めあて」「まとめ」が明確な授業を全教員が行うようにする。 ○管理職等による授業の巡回により、教員の指導状況を把握するとともに授業改善につながる助言を行う。 ○学期に1週間、互見授業週間を設定し、「授業改善点検評価シート」の交換による職員相互の研修とする。 ○学期末に教員・生徒アンケートを実施して授業改善の状況を把握し、全職員で分析結果を共有して次学期につなげる。</p>	B	<p>○授業における「めあて」と「ねらい」の提示においては、生徒アンケートの学校全体での結果は93%であり、目標を達成することができた。 ○「めあて」と「まとめ」の提示を継続して行うことができた。「振り返り」がうまくできないときもあるが大旨計画通りにできた。 ◆今後は、めあてとまとめの整合性やめあての質の向上を目指していく。 ◆「まとめ」「振り返り」は81%であり、振り返りの確実な実施と時間確保をしていく。</p>
	<p>【授業改善②】 〈生徒質問紙(54)〉「授業では、生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[80%以上]</p>	<p>○一単元の授業の中に一度は「話し合う活動」を取り入れることを全教科で取り組み、話し合いの基盤をつくる。 ○全教科で一度はタブレットPCを活用した意見交流や発表等の授業に取り組む。</p>	B	<p>○学校アンケートの「授業の中で生徒の間で話し合う活動を行っている」においては、生徒アンケートの肯定的回答が96%で、教職員アンケートの結果は72%で目標を達成した。 ○ICTを活用したり、話し合い活動を多く取り入れた。自分の考えを主張しながらも、周囲の意見も受け入れることができた。 ◆全教科で一度はタブレットPCを活用した授業は行ったが、より質の高い、また有効的な使い方を研修していく。</p>
	<p>【家庭学習】 〈生徒質問紙(14)〉「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」で「1時間以上している」と回答した生徒の割合[70%以上]</p>	<p>○全教科で授業→宿題→授業のサイクルを確立し、授業とつながる家庭学習によって学習時間を確保する。 ○学力定着サポートシステムの「基礎・基本定着問題」等を活用した家庭学習課題を学年の取組として行う。 ○6月実施の基礎学力テストの結果をもとに、補充が必要な生徒に対して放課後等の補充学習を実施する。</p>	B	<p>◆生徒アンケートで、学校の授業以外に1日あたり1時間以上勉強をしているという生徒が59%であり目標を下回った。 ○生活ノートや定期考査前の学習計画表を担当がチェックし、点検・指導することができた。 ○数学科において、学力定着サポートシステムを授業の中で利用し、1人1人の定着度の分析を行い、学力アップにつなげている。 ◆高見中校区で、小中9年間を見通した指導計画を年度内に協議し、作成する必要がある。 ◆教科の枠を越えた週末課題などを与え、家庭学習の定着を図っていく。</p>
体力向上に関する取組	<p>【授業改善】 〈生徒質問紙(1)〉 「運動やスポーツが好き。」の肯定的な回答をした生徒の割合[95%以上]</p>	<p>○毎時間の体育授業の準備運動に、持久力を高めるランニングや筋力を高めるジャンプアップ運動を設定する。また、25分間以上の運動時間を確保する。 ○タブレットPCを活用し、運動が苦手な生徒が積極的に参加できる体育の授業づくりをおこなう。</p>	B	<p>◆生徒質問紙で「運動やスポーツが好き」の肯定的な回答をした生徒の割合が87%であった。 ○保健体育の授業時に様々な補強運動を行い、体力の向上が図れた。 ○タブレットPCを活用することで、生徒自身が課題に気づき、解決に向けて意欲的に授業に取り組み、授業が活性化された。また、理解も深まり、生徒が思考する場面が多くあり、話し合い活動も充実したものとなった。</p>
	<p>【運動習慣】 〈生徒質問紙(6)〉 「学校の体育の授業時間以外でも運動やスポーツを行っている」について肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上]</p>	<p>○体育科の授業で体力テストを実施する。入力や分析は研究・研修部で行い、結果を全職員で把握し、部活動や校外活動につなげる。 ○学年・学校単位でのクラスマッチを実施し、運動に対する関心・意欲を高めたり、体を動かす喜びが実感できるようにする。 ○視覚特支との交流活動にゆるスポーツを位置付け、運動が苦手な生徒の意欲を向上させる。</p>	B	<p>○体力・運動能力に関する調査結果では、9種目の内男子は全種目、女子は6種目が全国平均を上回り、昨年度よりアップした。 ○「ランニングタイム」を実施したことで、生徒が体力向上についての意欲や目標をもつことができた。 ○第3学年はクラスマッチを実施し、運動に対する意欲を高めることができた。 ○第2学年では、北九州視覚特支とフロアーバレーボールを行い、多くの生徒が意欲的に取り組んだ。 ◆今後は、体力向上推進担当者を中心に様々なプランを作成する。タブレットPCを使いすぎて運動量を確保できない場面もあった。今後、授業構成を再考する必要がある。</p>
心の育ちに関する取組	<p>【授業改善①(道徳)】 〈生徒質問紙(3)(6)〉 「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上]</p>	<p>○道徳推進教師を中心に、道徳の時間に内容項目「希望と勇氣」「努力と強い意志」に関する教材を学期ごとに行い、重点的に取り組む。また、総合的な学習の時間において、地域交流を積極的に進める。 ○考え議論する道徳の授業づくりについて、授業を伴う研修会を実施、共通理解を図る。</p>	C	<p>○各学年で、生徒の実態に応じた内容項目を指導することができた。 ◆考え議論する道徳の授業づくりについて、授業を伴う研修会を実施することができなかった。来年度は道徳の教科化に向け、早い時期に研修会を行い、共通理解を図る。 ◆今後は、地域の人材を活用して、働くことを考えるキャリア教育やゲストティーチャーとして、早めにPTA等への協力依頼を行う。</p>
	<p>【授業改善②(特別活動)】 〈生徒質問紙(1)〉 「自分には、よいところがあると思う」の肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上]</p>	<p>○人権教育担当が5～6月にセルフエスティームテストを実施して生徒の内的実態を把握・分析し、生徒理解を深める。 ○あいさつや校歌の指導により、学校や地域を誇りに思う気持ちを育て、自己有用感を高める。 ○視覚特支との「心のバリアフリー事業」や地域行事への参加を促すことにより、思いやりの心や自他のよさを実感する機会を増やす。</p>	B	<p>◆「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的な回答をした生徒の割合が79%であり、目標を下回った。 ○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的な回答をした生徒の割合は92%であり、目標を上回った。 ○リーダーとなる人物の存在、それを支える仲間の存在の大切さ、やり切ったときの達成感を感じるすることができた。 ○「セルフエスティームテスト」の結果をもとに、個別的教育相談活動を実施し、生徒の実態を把握し、以後の指導に生かした。 ○朝の登校時に校歌や市歌の放送を流し、学校や地域を誇りに思う気持ちを育てた。 ○体育大会や文化祭においての北九州視覚特別支援学校の生徒との交流活動を通して、思いやりの心情を育んだ。 ◆視覚特支との「心のバリアフリー事業」は予定通り行うことができたが、生徒や職員の地域行事への取組があまりできなかった。</p>
健康・安心・安全の取組	<p>○いじめの未然防止を目指す。 ○児童の教育的ニーズを把握して、自立に向かうための指導・支援と校内体制を構築するとともに、関係機関と適切に連携する。</p>	<p>○定期的に担任や養護教諭との教育相談の機会を設け、必要に応じてスクールカウンセラーとの連携を図りながら組織的に対応する。 ○特別支援教育に対する理解が深まるように、職員会議後に情報提供のための連絡会を積極的に行う。 ○特別な支援が必要な生徒、保護者との話し合いを行い、適切な関係機関と連携、支援ができるようにする。</p>	B	<p>○必要に応じた面談や定期的に教育相談を行うことで生徒の友達関係を把握することができた。 ○担任だけでなく、養護教諭やスクールカウンセラーなどと連携を図ることで生徒が話ができる大人が増え、心の安定を図ることのできる生徒が増えた。 ◆スクールカウンセラーが2人いるが、1人は週1度、もう1人は月に半日というスケジュールのため、相談計画がたてにくいところがある。また相談体制の再検討を行う。 ○子ども総合センターや特別支援教育相談センターなどの関係機関との連携を推進し、特別な支援を必要とする生徒に対する支援体制を整えることができた。 ◆特別な支援を必要とする生徒のかかわりが学年職員主体であるが、学年所属の職員が少ないため時間の確保に苦慮した。他学年の職員とも連携を図り、全職員でかかわるようになる必要がある。</p>
開かれた取組	<p>【授業力向上】 ○「授業改善に向けて日々の授業改善に取り組んだ」の肯定的回答の生徒の割合の増加。 ○「授業改善評価シートを活用した」の肯定的回答の増加。 ○「学力向上に向けて組織的に取組を進めた」の肯定的回答の増加。 ○ICTリーディングスクールとして校内における研究等において、全職員対象の校内研修会を行う。(年間5回)</p>	<p>○学力向上推進教員のモデル授業を基に、全職員でワークショップ型の研修を行い、自らの授業を振り返ることで授業力の向上を図る。 ○公開授業については、全教科が行う。また、若年教員を中心とした授業の公開・相互参観の場を設け、教師の授業力の向上に努める。 ○タブレットPCや電子黒板等のICT機器を活用した授業を実践し、生徒の学力向上のための一助とする。 ○門司中学校と門司海青小学校の合同研修会や校内の研修会を計画的に設定するとともに、全職員で年間計画等について共通理解する。 ○11月に市内の学校向けの実践交流会(公開授業)を開催し、本校の事例を積極的に配信する。</p>	B	<p>○学校アンケート「テレビやタブレットなどのICT機器を使った授業を行っている」において生徒の肯定的回答が83%であった。 ◆「ICT機器を使った授業を行った」において、職員の肯定的回答が43%であるので、一部の職員だけでなく全職員の使用頻度を上げていく必要がある。 ○ICTリーディング校として、校内研修会や小中合同研修会、ICT実践発表会などの公開授業を実施し、教師の授業改善のための取り組みを充実させた。</p>